

# 六甲カトリック教会 教会報

6

No.582



## ミサが再開されました

5月30日（土）の夕方からミサが再開されました。いつもの時間より早く16時からの開始です。しかしこの日のミサは灘北1地区と北・三田ブロックの信者に限られました。ミサ再開の喜びは隠しきれませんが、まだマスク着用、笑顔も控えめに...

ようやく明けたミサですが依然「三密」を避けるため、ローテーションを決めて地区ごとに与る事になっています。31日の10時ミサは灘北2地区と阪神ブロック...という風に。そして日曜日は午後のミサもあります(16時)。全信徒が一堂に集まれるのはまだ先のような感じです。致し方ありません。まだ油断は禁物、第2波、第3波が予測されるように、私たちはコロナに対して長期戦略を考えなければならないのです。ミサ再開に当たって、アルフレド主任司祭から細かな注意事項が全信徒に示されています。今一度要約をここに再録します。

主日のミサの時間・・・土曜日16時、日曜日10時と16時 各ミサに一つの地区のみ与る。

割り当てられた時間のミサに参加できない場合は次回の割り当て日時まで待つ。

- 1、マスク着用、入り口の消毒アルコールで手指の消毒をする。
- 2、指定されている座席に座る。（使用禁止の座席には座らない）
- 3、歌は歌わない。
- 4、聖書と典礼、週報などは必ず持ち帰る。
- 5、聖体拝領の並びは2メートルの間隔をあける。
- 6、献金は聖堂入り口の籠にあらかじめ入れる。
- 7、ミサ終了後も間隔を空けながら退堂して、速やかに帰宅する。

なお、平日のミサは6月1日から始まる。時間は7時で変更なし。地区の割り当てなし。

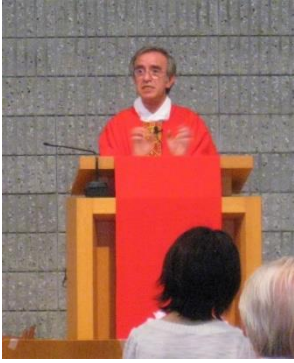
その他の集まりについては個別に判断、事前に連絡のこと。

月	日	曜日	時間	地区
5月	30日	土	16時	灘北1、北・三田
	31日	日	10時	灘北2、阪神
6月	31日	日	16時	灘南、神戸西
	6日	土	16時	灘西・中央
	7日	日	10時	東灘北1
	7日	日	16時	東灘北2、芦屋
	13日	土	16時	東灘南
	14日	日	10時	灘北1、北・三田
	14日	日	16時	灘北2、阪神
	20日	土	16時	灘南、神戸西
	21日	日	10時	灘西・中央
	21日	日	16時	東灘北1
	27日	土	16時	東灘北2、芦屋
28日	日	10時	東灘南	
28日	日	16時	灘北1、北・三田	



ともかくそろりと事態は前に動きました。今後状況がさらに良い方向にむかうように信徒は一層努力するほかありません。

## ミサ再開 聖霊降臨の主日に



5月30日（土）午後4時、主聖堂。

オルガンが鳴り、入祭の歌がソプラノ独唱で響き渡りました。ひさしぶりに聴いた荘重なオルガンと歌にぐっと胸にくるものがありました。

間隔を空けるため規則的にテープで仕切った座席には、ほぼ満杯の信徒が参集しています。新型コロナウイルス対策の自粛が長引き、やっと三か月ぶりに再開されたミサ、きょうは聖霊降臨の主日です。赤い式服をまとったアルフレド神父。淡々とミサをはじめられましたが胸中感慨深いものがあつたのではないのでしょうか。

土曜日の夕方ミサは本来7時からとなっていますが、しばらくは午後4時の開始になります。日曜日は午前10時と午後4時の2回行われることになりました。それぞれの時間帯は「三密」を避けるため地区会単位で順番に与ります。侍者も祭壇奉仕者も居ない祭壇に神父さまがひとり。あとは先唱、オルガニスト、独唱、朗読者2人が前列に。指定座席の数は正確には64席。最大席数の二割弱です。上から見れば左右対称になるように配置されています。

いままでと大きく違ったのは会衆は聖歌を歌わないことです。聖歌ボードは裏を向けたまま。独唱者が祭壇のほうを向いてマイクで歌います。入祭、アレルヤ唱、奉納と最後の閉祭の歌を全部ひとりで…。答唱詩編は答唱部分を独唱者が歌い、詩編は先唱者が唱えます。この日は「聖霊の続唱」がありましたが、これは神父が唱えられました。ミサ典礼文は唱えるだけ、拝領のときはオルガンの奏楽だけ。会衆は並んで距離を保ちながら、うやうやしくご聖体をいただくことが出来ました。ただ、マスクをこの時だけ外すという面倒は仕方がないことでした。初夏の午後5時、知恵と工夫をこらして再開された夕ミサはまだ太陽の明るいうちにおわりました。

翌日の日曜日（31日）の午前、午後ともスムーズに進行しました。司式は午前が中村神父さま、午後はアルフレド神父さまでした。いずれもほぼ満席、10時のミサは予備椅子を出すほどでした。

信徒が一堂に集まることはまだ出来ませんが、却って静謐なミサになりました。地区割別の参加方式は成功したと思います。消毒液の用意、座席の仕切り作業、貼り紙、聖書と典礼の配布など、このキメの細かい計画と準備には神父様と事務所の方が大変お手数をかけられたことと思います。また、典礼当番の組み換えなど煩瑣な手続きを短期間のうちにやられたであろう典礼部の方々、ありがとうございます。おかげでひさしぶりのミサに与れて幸せな気持ちになりました。



### ミサ再開に際してその他のお知らせ

- ☆ キリスト教入門講座（増井神父）は6月14日（日）から再開されます。11時15分から。場所はイグナチオホールです。
- ☆ 6月19日（金）の聖体顕示は行いません。
- ☆ 聖堂掃除当番は日程どおりに行います。当分の間は作業を軽減します。無理のないようご参加下さい。（6面の予定表参照）
- ☆ 社会活動部は神戸地区の「夜回り」「炊き出し」などの活動を開始しつつあります。6月13日予定の六甲教会の炊き出し当番はありません。
- ☆ 6月28日に予定されていた「祈りと音楽の集い」ーオルガニスト富田一樹氏を迎えては中止です。
- ☆ イグナチオ喫茶は当分お休みになります。



## ステイホームと言われたけれど……

### 「ある日曜日」

5月10日復活節第5主日、東京大司教区関口教会のごミサに与りました。場所はいつものお家ではなく、教会の敷地内にてYouTubeライブ配信です。

さすがに聖堂はまっ暗です。10時少し前と10時半ごろの2回、若い女性の方が来られていました。事務所の方にお尋ねすると、時おり（ごミサの有無を確認する）電話や、来訪者があるとのこと。お花が美しいのでご近所さんが散歩がてら子どもたちと写真を撮ったりすることもあるとか。今日も1組来られました。

何やら信徒さんが数人来ておられます。掲示板の模様替えだとか。南側は六甲教会の公的な掲示ですが、北側は安田さんが提案され、有志の方と共に美しく掲示されています。年に4.5回模様替え。目を引くためにああすれば、こうすればと相談しながら仕上げていきます。風の強い日や冬の寒い日などは作業が大変のようです。

今は学生が行き来することもほとんどありませんが、メッセージや祈りに目を止めて、特に若い方々の心に響くよう願ってやみません。教会信徒の皆さまも、自粛が解かれた暁には、北側掲示板にもご注目くださいね。《阿》



### 「聖母月」



外出自粛要請に続く緊急事態宣言、今では、自粛疲れとも言われる毎日が続いています。それでも、季節は廻り、暦は進み、五月は、聖母月。

先日、聖母月に因んで、北側掲示板の模様替えを行いました。この掲示板プロジェクト(勝手に命名!)は、ある年のカウントダウンの後に始まり、いかに道行く人々に目をとめてもらえるか? 北側掲示板の活用のために、いろいろな人が知恵を出し合い、試行錯誤を繰り返して、今に至っています。

そして、今回の聖母月でも、パパさまの聖母への祈りと共に、聖母マリアさまへ捧げる五月をより感じていただけるよう、マリア像も配置しました。

次に教会に来られる際には、北側掲示板にも目をとめていただければ幸いです。

一日も早く、皆さまにお会いできる日が来ますように! 《望》

### 「花屋さん」

緊急事態制限が発令されて、生活に不要と思われる店舗が閉まりました。営業されているのはスーパーとドラッグストアだけとっていました。そんな中、多くの花屋さんが営業されていたのです。

改めて、花は私達の生活に必要なのだと思いました。喜びの時、悲しみの時、いつも花があります。花を飾って結婚式を挙げ、洗礼式を行い、ミサに与ります。葬儀にも花は必要です。花のやさしさは疲れた心を癒します。自粛生活の今、小さな細やかな花を飾り、みつめて、ほっと一息つく毎日です。《陽》







## 「私の自粛」

コロナウイルスの流行で、私は人と会う機会を絶たれた。コロナより認知症が切実で、昔馴染んだ山歩きを再開した。

春六甲は新緑の柔らかい葉におおわれ、山桜から椿・つつじ草木の花々が競って咲き乱れている。鳥の鳴き声が降る坂道を、息を弾ませ登る。全身の細胞が酸素を吸いこみ、命がみなぎる。深呼吸が大地との一体感を生み、帰宅すると神話、絵本、童話、詩の朗読に向かい、テレビの歌や特集番組に涙した。

オンラインのおかげで、会社勤めの息子は仕事を家でする。

東京オリンピックへの関心は、今は全世界を舞台に

した国の威信をかけた対ウイルス国別対抗戦へ移った。「協力要請」という日本政府の戦法は、独裁国家の力による対応と対極にあり異彩を放っている。日本はいつの間にか民主主義の代表に立たされていた。

自粛要請は委縮要請ではない。考え工夫し、新しい世界を切り拓く絶好のチャンス到来、その文脈の中で読み解く。

《塚崎雄一》



## 「私の自粛と信仰」

私が六甲教会に移籍したのは震災の後ですので25年になります。その間ずっとオルガン奉仕者として、ミサに出席し、ミサで奉仕することが日常の当たり前前のことでした。その生活が思いもかけない形で断ち切られた

時、ふと、何をしたらいいのだろうかと考えてしまいました。灰の水曜日のミサをすませ、聖週間になった途端に荒れ野に放り出された様な気持ちでした。



飢えた様にYouTubeを探し、ヴァチカンやベネディクト会修道院、また東京教区などのミサや典礼を見続けました。そのことによって、いつもより聖書の言葉をしっかりと読み考え祈ることができることにもありました。

けれども、いつしか、自分でも、そして教会のメンバーで、何かをしたいと思うようになりました。一緒に音楽奉仕をしている方に声をかけてAcapellaというアプリを使った典礼聖歌録画の制作は本当に楽しい時間になりました。この様な特殊な状況下で遠く離れた場所での典礼を見せていただき、ある意味では充実した四旬節、復活節を過ごしました。今は、みんなでそろって声高らかに歌うことで主を賛美できる日が早く来ることを祈っています。

《三浦優子》



## 園芸便り

教会のお庭も新緑から木々の緑が濃くなり駐車場、藤棚周辺は日陰に覆われてきました。初夏の花壇はアカンサス（キツネノゴマ科）、数種類のセージ（シソ科）やジキタリス（ゴマノハグサ科）等の背丈の高い花が美しく力強く開花しています。園芸係では週に一度お手入れ、水撒き当番の方が出向いております。



教会を訪れる事が出来なくなった頃、3階の司祭館のリニューアル工事が始まりました。御聖体訪問の方や顔見知りになった工

事関係の方から「ご苦労様！ここは良い所ですね。」と声を掛けて頂くこともありました。

世の中も少し落ち着き、明かりが差し込んで来たように感じます。先日は男性や若い世代の方にも加わっていただき、マスクを着けて密を避けながら庭の作業を行いました。植木の整理をしていた方が信徒会館の南に植えてある蠟梅の枝の中に片手に乗るくらいの小さな鳥の巣を見つけました。教会への人の出入りが少なくなって、安全で暖かい格好の場所を見つけて子育てをひっそりとしていたのではないのでしょうか。来年も来てくれるか楽しみです。

入梅前には、夏から晩秋に向けて楽しんでいただけの花壇作りを例年どおり予定しております。皆様との再会が近い事を信じております。《施設管理部園芸係 貴島せい子》

## ◆ 閑居と余暇のなかで ◆

強いられた開店休業の日々、何か意欲的に取り組むことがないかあれこれ試行錯誤を繰り返した。皆さんも数多く試されていることだろう。ひっそりと聖堂で祈っている後ろ姿があり、花のお世話に汗を流している方々や、毎日そろって散歩している夫婦をみかける。友達と大声で話しながら自転車をこいでいる高校生たちや、お母さんに手を引かれてウロウロしながらお宮参りをしている女の子にも出会った。普段ならばあまり気づかない人々の姿や動作に目が留まる。さて俺様は何をしようかとあれこれ思案している。芦屋の足湯にも喜んで出かけたが、教会で蓄えられているCDやDVDをなるべく多く視聴することに努めている。また図書室には数多くの専門書が並んでいるが、フロイスの日本史全十二巻が揃っているではないか。そこで目下まだ七巻目ではあるが、少し内容に立ち入って自分なりの感想をまとめてみようか。

まず驚くのは信長・（光秀）・秀吉・家康の3代にわたる支配権の移り変わりや動乱がつぶさに辿られ、天下人として君臨する各人物像があらわに活写されている。権力や覇権や領地を目指して各地に群雄がヒシメキ合い、権謀と術数の限りを尽くして戦争と騒乱に明け暮れた時代に、キリスト教の宣教師として直接に絶えず動乱に巻き込まれ、生命の危険に瀕しながらもフロイスの適確な歴史家としての眼力に恐れ入るばかり。彼は職務上でも直接に、イエズス会士が各地からローマの本部に定期的にする報告書や直筆の書簡類に接していたが、まさに当事者・目撃証人として深く鋭く広い視野で、変転して止まない流動的な事態のただ中に浮きつ沈みつ、出来事の実相・表と裏とを見事に解き明かしている。それぞれ一癖も二癖もあるツワモノたちが混

沌の極みから抜け出し勝利者として君臨するために、どれほど非情に徹しどれほど強欲に振舞い、どれほど巧妙に立ち回わり、また傲慢不遜であったかを具体的に生き生きと描写している。

第二の驚きは、先祖伝来の宗教・神道や仏教から命がけでキリストを選んだ入信者たちのたくましい信仰である。周りの人々からの脅迫と嘲笑と追放にもひるむことなく、唯一の神の摂理を信じ抜く勇氣・ひたむきさに打たれる。苦行や祈りに励み、互いの交わりや奉仕の業に真剣だった。特に身分的には卑賤・文盲といわれる人々が示した、教えに殉ずる生き方が際立っている。恐れと崇りに満ちた多神教的な風土にさらされ、性の風俗や結婚に関する乱れにとり囲まれ、切り捨て御免の厳しい身分制に耐え、また支配者の勝手な横暴と収奪にさらされながら、毅然とイノチを賭けて信仰を守り抜いた。さらに彼らが、何千里の波頭（暴風と難船と海賊との危難）を越えてイエスの福音を携えて訪れた宣教師たちに、いつも変わらぬ親愛と敬意、惜しみのない支援と協力を喜び勇んで果たした事実にも目を瞞る。

第三にキリスト教の宣教の仕方について、かつてと今とは事情が全く異なるけれども示唆に富むことが多く、私個人としての反省も提案も注文も数多く思い浮かぶ。いつか機会があればゆっくり考えて書いてみたい。私たちは殉教者たちの

子孫、安閑と世俗にまみれ、ほどほどに生きているのが申し訳ない。主、憐みたまえ。キリスト、憐みたまえ。

中村健三 合掌



## 【 2020 年 6月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	教会の母聖マリア				初金曜日ミサ 07:00 10:00 ◎灘西・中央	
7	8	9	10	11	12	13
三位一体の主日					◎灘南・神戸西	
14	15	16	17	18	19	20
キリストの聖体 キリスト教入門講座					イエスのみ心ミサ 07:00 ◎東灘北1	
21	22	23	24	25	26	27
年間第12主日			洗礼者ヨハネ の誕生		◎東灘北2、芦屋	
28	29	30				
年間第13主日 キリスト教入門講座	聖ペトロ聖パウ ロ使徒					

- ・キリスト入門講座14日から再開。28日も
- ・◎は掃除当番地区です。ミサ再開の地区割ではありません。



### 【編集後記】

緊急事態制限の中、5月号、6月号は広報部員が集まることなくオンラインでの情報交換だけで編集を進めました。5月号は残念ながらホームページにアップするだけで印刷はしませんでした。紙面を希望された方にお渡しできなかった事をおわびいたします。そして制限が少しずつ解除されミサの再開とともに1か月ぶりに6月号を印刷する事ができ、また光が差し込んできたような喜びを感じています。編集に携わる事ができた主のお導きに感謝しています。《Y.S》

原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接 ご持参いただくか、FAX やメールでお願いい たします。皆様からの原稿をおまちしておりま す。 <span style="float: right;">(広報部)</span> <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a>	<b>六 甲 カ ト リ ッ ク 教 会</b> 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 Email Address <a href="mailto:renraku@rokko-catholic.jp">renraku@rokko-catholic.jp</a> 編 集 広 報 部 発行責任者 アルフレド・セゴビア
---	--